

地元のことを知る旅 その4
横戸と柏井のふしぎ発見の旅

<1> 鷹之台カンツリー倶楽部

日商岩井の前身(正確に言うと日商の前身)である鈴木商店の清木一男・太陽曹達の後藤半七郎らが、日本のゴルフはアメリカから入ってきたもので、ゴルフの本場英国から入ってきたものではない。本場英国式のゴルフ場を作りたい」とのことから、麴町の大地主伴田六郎(ともだろくろう)氏に持ち込んだのが始まりである。伴田家は豪商で、一族が各分野に進出していた。

1930年(昭和5年)、前身である「鷹之台ゴルフ倶楽部」が、大和スポーツ協会によって設立され、千葉県千葉郡犢橋村横戸字高台の山林にゴルフ場を建設した。

ゴルフ場の名称は、「高台」というこの地の名をアレンジして「鷹之台」としたようである。

昭和7年(1932年)に完成し、昭和9年(1934年)にさらに改良(改造)した。

1945年(昭和20年)3月、第二次世界大戦の戦況激化によりゴルフ場は閉鎖された。

鷹之台ゴルフ倶楽部は、コースの一部は芋畑になり、クラブハウスには陸軍が駐屯したが、空襲下で機銃掃射の対象にもなった。

そして敗戦、開拓農民が占拠してコースは畑地になり、ゴルフ場は自然消滅となった

しかし、助成金を出していた千葉県からクレームが出たため、建設目的を「千葉牧場」の建設に変更して農地転用の許可を取った。昭和29年(1954年)2月10日、アウトコースは牧場、インコースがゴルフ場という変則的ゴルフ場が仮開場され、同年5月23日に完成し開場された。牧場では綿羊を飼育してコースの草取りとしても役立てていたらしい。

そして、戦後の復興の時期を過ぎ、高度経済成長の時期を過ぎて、本格的英国式ゴルフ場は今日も生き残って活躍しているようである。

*鷹之台カンツリー倶楽部はここ <https://yahoo.jp/ir3bbsm>

<2> 高台向(たかだいむかい)というバス停

鷹之台カンツリークラブの北側に沿った道は、国道16号線と大和田・幕張線の県道とを結ぶ細い道で、住宅地が広がっているにも関わらず京成バスの「花まわる号」しか走っていない不便なところだ。

花見川に架かる弁天橋を渡るとすぐに、左手に鷹之台カンツリークラブが続き、右手に住宅地の連なりを見ながら走るようになると間もなく「高台向(たかだいむかい)」というバス停がある。 *高台向バス停はここ <https://yahoo.jp/fEUQg4>



この地は、昭和初期には「千葉郡犢橋村横戸字高台向」という地名で、さらに遡れば「横戸村字高台向」だった。高津川が花見川に合流する地点の高台で、「高台向」という呼称から想像すれば、もうひとつ高台があって、向き合っていたことを意味している。

「高台」という地名と「高台向」と言う地名は向き合うように立っていたのだが、「高台」の方はゴルフ場が造成されたことで消えてしまって「鷹之台」となり、「高台向」だけが生き残ったようである。

大正年間の国土地理院の地形図を見ると、花見川の両岸にあるいくつかの小さな突起に「高台」と書かれており、この辺りでは原野の中の小さな高みをすべからく「高台」と言ったようでもある。

<3> 高台向遺跡と第六天神社

千葉市教育委員会がまとめた市内の遺跡発掘調査の報告を見つけたので、中を読んでみたら

「高台向遺跡」の存在がわかった。現在第六天神社がある所（千葉市花見川区横戸町1486-1）が遺跡発掘の場所だということがわかった。

高津川が花見川に合流する地点の南側は海拔10~15mほどの台地になっている。周囲は住宅地で、迷路のような細い道が走っており、道を一本間違えると戻るのが難しいような所だった。

台地の中のポコンと突き出た所に「第六天公園」があり、頭頂部に第六天神社が鎮座している。

*第六天神社はここ <https://yahoo.jp/JnPmLk>

創立時期は不詳らしい。主祭神は面足命（おもだるのみこと：淤母陀琉神）と惶根命（あやかしこねのみこと：阿夜訶志古泥神）。安政年間に行われた本殿建て替えの折の祝詞が残されていることから、少なくともこの時期には産土神として大事にされていたようである。

北に成田街道が東西に走る景色が見下ろせて、景色としてはなかなかのもの。

高台向遺跡は、第六天神社の周囲を整備して「第六天公園」を造成するにあたり発掘が行われたとのこと。結果として、古墳時代の住居跡、縄文時代の土器や土壌、平安時代の住居跡などが数多く発掘された。調査報告によれば、この台地の南方の鷹之台カンツリー倶楽部の敷地内からは、高台向南遺跡（前方後円墳を含む）が発掘されており、敷地内にはまだ未発掘の情報が埋もれている可能性がある。これら全部が解ると、相互の関連性も含めて貴重なものになるだろうと記されていた。



<4> 川の流れも変わった

東京湾に注ぐ花見川は、印旛沼に注ぐ新川と接続されたひとつの川になっている。しかし、元々は勝田川と高津川が合流して北に流れる新川と、花見川とは別の川だった。治水対策として、やや低めの分水嶺を切り開いて人工的に二つの川を接続したものである。

高台向に古代人が暮らしていた頃には、北側の低地を見下ろすと、「左（西）からの高津川と、右（東）からの勝田川が合流する」光景が望め、南を眺めれば、海拔20~30mの分水嶺の山並みが連なっていたに違いない。

<5> 追館（おいだて）というバス停

ローカルミニバスの花まわる号は高台向のバス停を出ると、一旦大和田駅に立ち寄り、再び鷹之台カンツリー倶楽部を左手に見ながら南に向かう。しばらく走ると「追館（おいだて）」バス停に止まる。

「追館」は高台向と同じように、現在はバス停として存在するだけで、地名としては存在しない。しかし歴史を遡れば、この辺りは、「千葉郡柏井村字追館」だった。「追館」という、どこことなく意味ありげな、味わい深い地名が気になり、その起源を調べてみたが、残念ながらわからなかった。

*追館バス停はここ <https://yahoo.jp/3U8rBQ>

<6> 番号順に並んだ路地

追館のバス停に立つと、鷹之台カンツリークラブの堀の下部に「西十二番通り」と書いた看板が建っていた。気を付けて見ると、少し北側には「西十一番通り」があって、南側には「西十三番通り」。

西側の住宅地に入る、櫛の歯のように並ぶ路地に対応しており、道路の名称であることがわかった。

柏井小学校の南端が「西一番通り」で、「西十三番通り」までであった。
帰宅後に Google Map で調べてみたら、鷹之台カンツリー倶楽部の北側の道ではこれが、「東一番通り」から「東十一番通り」までであることがわかった。東の路地は櫛の歯のようにきれいには並んでおらず、鷹之台カンツリー倶楽部の塀の表示看板も欠落があるようだった。
宅地開発をした時に、「区画を明示することを目的に付された道路名」ではないかと想像したが、定かなことはわからなかった。



<7> おまけの話

横戸と柏井の「気になったものの探索」のテーマはここまでだったのだが、行きがかり上知ってしまった新たな疑問が心残りなので、ついでにもう二つ調べてみることにした。

<3>項の高台向遺跡について調べている時に参照した、千葉市教育委員会の遺跡発掘調査資料に載っていた「双子塚遺跡」と「大山遺跡と大山古墳」がどこにあるのかが気になった。

7-1 双子塚遺跡

昭和58年発行の「千葉市双子塚 ～横戸団地建設に伴う埋蔵文化財調査報告書～」に詳細が記されているようなので、ダウンロードして調べてみた。

発掘場所の地番が「千葉市横戸町 1346-1」と書いてあるが、花見川区横戸台」という町名が起立したことにより、旧来の地番では場所を探すことは不可能になってしまった。

塚の大きさは、直径 15m余・高さ 2m、円形。出土品は、縄文時代の土器片から寛永通宝・鍋・皿まであり、特定時代の墳墓とは断定できない。近隣に庚申塚やその他の塚がいくつか存在することから、旧横戸村と柏井村の村界に位置する「境塚」ではないかと書かれていた。

遺跡は発掘後に埋め戻されて、運動場(公園)という形で残されたようである。報告書中の地図を現在の地図の上に重ねてみると、南柏井へ向かう道が、横戸台の住宅地を抜けて、横戸南公園の西側にある高齢者用運動公園のような所(花見川区横戸台24番地)が双子塚の場所のようである。

*双子塚遺跡の場所 https://yahoo.jp/Sw6k_J

7-2 大山遺跡と大山古墳

千葉市教育委員会の「遺跡発掘調査の報告資料」に載っていた発掘場所は現在の地図で見ると、「大山遺跡」の場所は、「花見川区三角町」(https://yahoo.jp/F-_3gQ)のヤマザキデイリーストアの場所で、「大山古墳」は、その南西の「花見川区柏井町」(<https://yahoo.jp/8ptD79>)と考えられる。いずれも現在は平坦な畑となっている。また、三角町という町は陸軍演習場が消滅した戦後に起立した町で、元は柏井村・犢橋村だった。

柏井村の古い小字地名のリストを見ると、「柏井村字大山」という字地名が存在していたことがわかった。この場所の旧地名が「柏井村字大山」だったかどうかはわからないが、南西へ600mほどの所に「大山」というバス停があるので、この辺り一帯を「字大山」と言ったのかもしれない。

現在は全く起伏のない広大な平地だが、大正時代の地形図を見ると海拔 20~23mのなだらかな丘陵の中に、ポソソと海拔 27~28mの突起が存在する所だったようだ。

前述のヤマザキデイリーストアの前の道は陸軍演習場の時代には軍用鉄道が走っていたし、終戦後は農地として再開発されたので、いつの日か、何らかの形で整地されて平坦地が変わってしまった可能性は大いにある。

以上